



サービス連合「第2回政策推進議員懇談会」開催

観光産業の将来展望について活発な意見交換を実施



冒頭、挨拶する後藤会長



大塚耕平参議院議員（政策推進議員懇談会会長）



講師の小林慶一郎教授

7月2日（金）、第2回政策推進議員懇談会を開催しました。今回は政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の構成員でもあり、慶應義塾大学経済学部の小林慶一郎教授にお越しいただき、「コロナ危機への政策対応と課題」をテーマに講演をいただきました。また、コロナ禍の観光関連産業の状況を踏まえたうえで、産業の将来展望を労使で共有するため、今回の懇談会には各業界団体の役員にも出席いただき、サービス連合役員と合わせて20名が出席しました。

冒頭、後藤会長は「観光産業は厳しい状況だが、将来性が失われたわけではない。コロナ禍が長期化する中、足元の対応が重要である。しかし、それだけではなく産業の将来への展望を業界団体の皆さんと共有し、この局面をなんとか乗り越えていきたい。」と開催の趣旨について述べました。

懇談会会長の大塚耕平参議院議員は「6月の全国企業短期経済観測調査（日銀短観）が発表された。宿泊業や旅行業などの観光産業と全産業の傾向を比べて、これほど跛行性がある局面は過去に例がない。この危機的状況を乗り越えるには、労使が一体となって政府に訴えていくことが重要である。」と述べました。

小林教授から、直近のコロナ対策の具体的施策の状況と課題、長期的なコロナ対策の展望と産業構造の変化など多岐にわたりお話をいただきました。講演後に実施した質疑応答・意見交換では、労使双方から質問がなされ、活発な意見が交わされました。